- ・議会が委員会での所管事務調査や決算審査を通じて市の事務事業を評価し、その結果を予算編成に反映 させることで、議会の監視機能(チェック機能)を強化します。
- ・これにより、市の事業の課題を共有し、より効果的で効率的な事業運営(適正化・効率化)を目指します。また、評価内容を市民に公表することで、説明責任を果たします。
- ・議会改革推進特別委員会において、議会の監視機能強化と政策立案能力の向上を目指し、「議会による 事務事業評価」の導入を検討。
- ・決算審査だけでなく議会の意志を予算編成に反映させる仕組みとして、先進市の事例も参考にしながら、 浜田市議会独自の手法を構築。
- ・令和6年9月定例会議で試行実施し、令和7年3月から本格実施。

1 事業選定(2月~3月)

- ・3常任委員会(総務文教・福祉環境・産業建設)が、それぞれ3事業ずつ合計9個の評価対象事業を選出。
- 2 資料提出(3月下旬)
 - ・市の担当課は、選ばれた9事業について、現状や課題をまとめた「事務事業評価シート」を議会に提出。
- 3 調査・評価(4月~9月)
 - ・3常任委員会は、所管事務調査(関係者への聞き取り、先進地視察など)を通じて事業内容を調査。
 - ・9月定例会議の決算審査の際、対象事業に対する質疑を行い、全議員が9事業の「議員事務事業評価 シート」に評価(事業内容・予算規模)と改善提案を記入し提出。

4 意見集約と議決(9月下旬)

- ・3常任委員会は、全議員から出された評価シートをもとに「議会評価意見書」の素案を作成。
- ・全議員で内容を協議・調整し、最終的に議会としての意見書を完成。
- ・本会議で意見書を議会の統一した意志として議決し、市長へ提出。 (議員提案による決議として本会 議に上程)

5 フィードバック(翌年2月)

・市は議会からの意見書に対する対応状況を議会に報告。その内容は3月定例会議の当初予算審査で確認。

内容(評価の流れ)

議会による事務事業評価

1 PDCAサイクルの確立

・委員会での所管事務調査や決算審査 (Check) で明らかになった課題や改善点の、予算編成 (Action) への反映による行政サービスの質の向上。

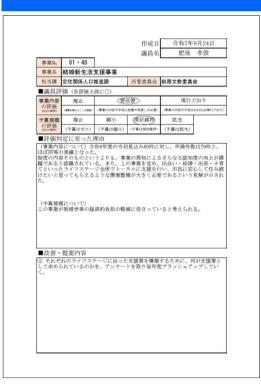
2 議会の監視機能の強化

- ・事業の成果や課題を深く掘り下げて評価することによる、執行機関に対するチェック機能の向上。
- 3 政策形成能力の向上
 - ・議員一人ひとりの事業評価への関与による、市の課題への理解深化。
 - ・議会評価意見書を通じた市長への要望による、より具体的で建設的な政策提案の実現。
- 4 市民への説明責任の向上
 - ・評価の過程や結果の公表を通じ、予算の使途と成果を市民に分かりやすく明示。

浜田市事務事業評価シート



議員事務事業評価シート



9月定例会議での決議



議会評価意見書

事業名 結婚新生活支援事業	
事業内容:現行どおり	予算規模:現状維持
定住促進や少子化対策に資す	「る施策として一定の効果が認められ
が若年層の結婚・新生活の後	押しとなっている点も重要であり、中
「大いに役立った」「ある程」	度役立った」と回答するなど、利用者
U.	
である晩婚化・未婚化の解消	前に向けても一定の効果が認められ、
が本事業を結婚のきっかけの	9一つと回答していることから、支援
実感されていると考えられる	
ターンの増加については、引	き続き検証が必要である。
的不安の軽減が結婚や定住仮	B進に寄与していることから、現状の
営方針を維持することが適当	と判断する。
いでは、申請件数は目標を上	上回るなど事業の実績は良好であり、
概ね高いことから、現段階で	では現状維持とすることが適当と判断
れた財源を有効活用するため	りには、更なる工夫や事業構築が求め
有民ニーズの変化に対応する:	ため、今後の状況に応じた見直しも必
案内容】	
て空き家パンクとの連携によ	はる住宅提供メニューの検討や、出産
医療費、就学前教育保育費力	よどライフイベントに応じた支援の拡
生活支援事業は結婚直後の任	E居費や引越費用に特化しているが、
子育て、教育などの支援が個	■別に分かれているため、これらを一
括的な支援パッケージやナビ	ばゲーション化を図ることで、利用者
	用対効果が高まるものと考える。
ついてはさらに力を入れ、私	吉婚前に広く知ってもらうことが必要
一ト等で情報入手経路を詳細	mに把握し、効果的な周知方法の検討
められる。	
している部分は、国の方針で	で変動する可能性がある中、浜田市独
いて、若者の定住促進や少子	F化対策の目的を達成するため、工夫
継続・発展させることが求め	られる。
まえ、事業の充実と周知の引	他化に向けた取り組みを進めることが
	定住促進や少子化対策に貧強 で住促進やあ場合。新生活のる程 い。である晩録を結婚のきっかけの メルに役立った」「ある危難い。 である晩録を結婚のきっかけの メルに役立った。」「あるの解析 が本事を結婚のきっかけのまた。 メーシンの種類にいるいるでは、発生の メルにしまれることが確し 当いでは、いまない。 ボルスを有かが、ではない。 がは、中語かす数とは目標及階 れた日間、たまない。 大きない。 、 大きない。 、